## １　た・づ・な

### 「挑戦は限りなく」

**日本調教師会　会長**　中村　均

いつもの様に、ＢＴＣの管理する日高育成総合施設軽種馬育成調教場の広々とした草原を走る遠く彼方の馬の調教を見ていて、ふっと記憶がずっと昔に吸い込まれていく様な気がして、不思議な錯覚を覚えた。

時は、20 年以上前にタイムスリップし、遠いイギリスのニューマーケットの丘に、今まさに自分が立っている様な気持ちになっていた。

昭和 56 年わが国の競馬は、国際化の第一歩として、第 1 回ジャパンカップ競走が行われていた。多くの日本人が注目する中、名も知らないアメリカの伏兵馬メアジードーツが圧勝した。日本の競馬関係者は、伏兵馬が勝った驚きより、日本馬の脆さに大きなショックを受け、同時に世界の圧倒的な強さに震撼していた。その時、まさに黒船来航による日本の競馬の夜明けだった。

敗戦ショックを契機に、わが国のホースマン達は、遠く世界に夢を馳せながら、自然に『強い馬づくり』という合言葉を叫ぶ様になっていた。ホースマン達は、それぞれの分野で研究努力し始め、わずか四半世紀経った今日、果たして日本馬の実力は、世界に肩を並べる様にまでなってきていた。画期的な出来事だ。この様な短期間で、これほどの進歩を遂げた国は、世界でも類を見ないであろう。日本の経済力が主因なのか、それとも日本人の持ち前の努力の結果なのか、定かではないが、驚くべき事である。

美浦トレセンが開設 30 年を迎え、栗東は開場 40 年を迎えようとしている。両トレセンの坂路コースは、ニューマーケットの丘をまねて作られたが、栗東においては、わずか幅 7m しかない。しかし、その果たした役割は、あの広大なニューマーケットの丘に匹敵し、驚異的な効果を発揮していった。『日本の坂路を制するものは世界を制す』という言葉が生まれ、人の英知と努力は、使い方によっては素晴らしく、又一方では恐ろしいものだなと、つくづく感じる。

そんなことを考えながら、ふっと現実にもどると、日高のＢＴＣの草原に立っていた。

あのニューマーケットの丘を彷彿させる調教場を見ていて感動した。狭い日本にこんなにも広い施設が、出来るとは、夢にも思わなかった。

見渡す限りの大草原、なだらかな丘陵、澄み切った空気、頬をなでる風、どれを取ってもニューマーケットそのものだ。

ここで調教された競走馬は、美浦や栗東で養われた世界に通ずる能力だけでなく、広々とした大地から受けた、冷静沈着性を含めた大らかな精神を生み出し、世界遠征の時に求められる能力プラス、何事にも動じない強い精神力を養う事が出来るのではないだろうか？

厳しいコースで激しいトレーニングを積んだ後は、広々とした大草原をゆったり逍遥する。それの繰り返しにより体力と精神が作りあげられていく。見事なオンとオフのハーモニー。

競馬は馬の能力・スピードや闘争心だけでは勝てない。レース場においてもレース中でも落ち着きが必要で、騎手とのコミュニケーションや指示に従順でなければならない。

限られた広さと緊迫感のある両トレセンの環境では、馬の精神に冷静さを養うには、少々難しい。やはりＢＴＣの様な環境と施設が必要であると思う。ＢＴＣは、理想的なトレーニング施設である。ＢＴＣが美浦や栗東のトレセンであったらなと、いつも思いながら羨望の眼差しで馬の調教を見ている。

世界の頂点を見据え、そして世界を制するには、ＢＴＣの様な施設をもっと有効的に利用する方法を考えていかねばならない様な気がする。・・・・・・・・・・・

しかし、もっとシビアに考えると、ニューマーケットの丘やＢＴＣそして両トレセンの施設等をもってしても、もはやこれ以上の馬の能力を鍛えるのには、限界にきたような気がする。使い方が間違っているか、正しいか？は、別として、現存する施設の枠内で馬を強くするのは無理があるのではないだろうか。

もっと新しい画期的な調教方法と飼養方法を考えて行かなければ、もうこれ以上、日本の馬の能力は大きく上昇することはないだろう。弱い馬を強くするのは成功したが？

やがて、ホースマン達の新たなる挑戦が、再び始まるであろう・・・・・・・・